びざん 9月号

JA NEWS 2026 NO.688

第57年度 通常総代会

6月27日、JA会館別館大ホールで第57年度通常総代会を開き、465人（本人出席230人、書面決議235人、委任状0人）が出席しました。

開会にあたり、伊勢政喜組合長は、「現在の世界情勢は、政治・経済ともに緊迫した状況が続いており、特に中東情勢の悪化によるエネルギー価格の高騰やサプライチェーンへの影響が懸念されています。こうした不安定な国際情勢は、地域経済や農業現場にも大きな影響を及ぼしており、肥料・飼料・燃料など生産資材価格の高止まり、労働力不足、異常気象による農作物への影響など、農業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。

一方で、安全・安心な農畜産物を安定的に消費者へ届けることは、食料安全保障の観点からも、私たちJAに課せられた重要な使命です。JA徳島市は、行政や関係機関と連携し、担い手農家はもとより、小規模農家や兼業農家の皆様にも寄り添いながら、営農指導、販売支援、資材の安定供給に努めてまいります。また、管内農産物の品質向上やブランド力強化、地産地消の推進にも取り組み、地域農業の価値をさらに高めてまいります。

金融面においても、金利動向が営農資金や住宅ローン、資産運用などに大きく関わる時代となっています。組合員一人ひとりに寄り添い、丁寧な情報提供と相談対応を進めてまいります。今後も協同組合の原点である相互扶助の精神を大切にし、信用・共済・購買・販売・営農指導など各事業の連携を深め、地域の皆様から信頼され、必要とされ続けるJA徳島市を目指してまいります。」と挨拶しました。

加茂名支所の稲原照雄氏が議長として議事進行を務め、令和7年度事業報告や令和8年度事業計画など提出議案及び附帯決議案が、すべて原案通り承認されました。

第57年度決算報告

損益計算書

（単位：千円）

科目	令和7年度（実績）	令和8年度（計画）
1.事業総利益	2,120,272	2,161,100
信用事業総利益	913,831	972,600
共済事業総利益	480,308	456,300
購買事業総利益	355,589	337,000
販売事業総利益	326,948	352,300
その他の事業総利益	47,454	45,300
指導事業収支差額	△ 3,859	△ 2,400
2.事業管理費	1,803,005	2,039,300
3.事業利益	317,266	121,800
4.経常利益	470,533	254,400
5.税引前当期利益	486,733	252,900
6.当期剰余金	371,607	195,500
7.当期未処分剰余金	873,802	

剰余金処分案

（単位：千円）

科目	令和7年度（実績）
1.当期未処分剰余金	873,802
2.剰余金処分額	373,802
(1)利益準備金	75,000
(2)任意積立金	257,709
①信用事業基盤強化積立金	7,709
②施設整備積立金	50,000
③経営安定対策積立金	200,000
(3)出資配当金	41,093
3.次期繰越剰余金	500,000

（注）出資配当金は年１％の割合です。
ただし、年度内の増資及び新規加入については日割り計算となります。

令和7年産ブロッコリー統一部会 販売反省会を開催

ブロッコリー統一部会は、6月29日にパークウエストンで令和7年産の販売反省会を開催しました。会議では、販売実績及び次年度課題点についてや、栽培管理について協議しました。

令和7年産は、栽培面積324．3ha（前年比92％）、出荷数量3,690トン（前年比102％）、販売金額14億7,900万円（前年比92％）となりました。

販売単価は401円／キロ（ケース単価2,406円）で、前年比90％となりました。

作付面積が前年を下回ったものの、黒すす病などの病害発生が比較的少なかったことから、出荷数量は前年を上回りました。また、大玉傾向での出荷となった中でも、1キロ単価は400円台を維持し、一定の成果を収めることができました。

一方で、気象条件による生育の遅れや前進出荷、降雨・高温による腐敗や死花など、安定出荷に向けた課題も明らかとなりました。今後も適期収穫や選別の徹底、病害虫防除、排水対策などに取り組み、安定出荷に取り組みます。

さらに、適期収穫の励行（Lサイズ主体の出荷）・選別規格を厳守し、個人間・支所間格差の是正に努め、高品質な出荷体制を目指します。

JA 徳島市管内の情報をお届け
トピックス

ＪＡバンク徳島年金受給者のつどい　松平健 中村美律子コンサートを開催

【▲左下写真　一番右が長尾会長】　【▲右下写真　中央左が木村会長】

７月７日・８日の２日間、アスティとくしまにおいて、JA バンク徳島主催による「年金受給者のつどい 松平健 中村美律子コンサート」が開催されました。

公演は、午前・午後の 2 部制で計 4 回行われ、JA 徳島市からは約 2,616 名の皆さまにご参加いただきました。会場には開演前から多くの来場者が集まり、期待に胸を弾ませる皆さまの笑顔であふれていました。

ステージでは、松平健さんの代表曲「マツケン・サンバⅡ」や、中村美律子さんの「河内おとこ節」をはじめ、数々のヒット曲が披露されました。華やかな衣装と迫力ある歌声、息の合ったステージパフォーマンスに、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。

松平さんのきらびやかで躍動感あふれるステージでは、観客も自然と手拍子を送り、会場全体が一体となって盛り上がりました。また、中村さんの力強く伸びやかな歌声が響き渡ると、客席からは感嘆の声が上がり、曲が終わるたびに大きな拍手が送られました。

さらに、お二人による軽快なトークでは、笑い声が会場のあちらこちらから起こり、和やかな雰囲気に包まれました。圧巻のステージに、来場者の皆さまは心ゆくまで酔いしれ、充実したひとときを過ごされました。

中盤には、眉山支所年金友の会 長尾博志会長、八万支所年金友の会 木村拡史会長より、松平さん・中村さんへ徳島の特産品である「すだち」が贈呈されました。お二人は笑顔で受け取られ、会場からは温かい拍手が送られました。

甘長とうがらし出荷順調

佐那河内選果場で、甘長唐辛子の出荷が順調に進んでいます。（取材時：７月 15 日）出荷は６月中旬から始まっており、10 月上旬ごろまで続く予定です。

７月 15 日、佐那河内支所管内の生産者・元木秀男さん（84）の作業場には、収穫された甘長唐辛子が入ったコンテナが所狭しと並び、元木さんが出荷調整作業に励んでいました。

佐那河内村産の甘長唐辛子は約 20 年の栽培実績があり、関西市場での需要が高く、高い評価を受けています。鮮やかで目を引く緑色が特徴で、「甘長グリーン」の名称で出荷されています。

昨年度は、生産者 10 戸で計 7.7 トンを出荷しました。

元木さんは「高齢化に伴い、生産者は減少しつつありますが、定量・安定出荷ができるよう努力していきたいです。軽量で作業負担が少なく、高齢の生産者だけでなく、女性や新規就農者にも取り組みやすい品目です。取り組む生産者が増えてほしいです。」と話しました。

出荷のピークは８月上旬ごろです。元木さんのおすすめの調理法は天ぷらです。また、砂糖としょうゆで甘辛く煮て佃煮にすると、保存が利き、ご飯のお供にも最適だそうです。

加茂名支所で七夕飾り　若松こども園児童が訪問

加茂名支所では、毎年７月の恒例行事として、若松こども園の園児を支所に招待しています。

同園の３～５歳児クラスの園児 150 人が、願い事や絵をかいた短冊を事前に用意し、支所職員が笹に飾り付けました。７月２日、支所を訪れた園児たちは、お礼に七夕の歌を披露しました。店内に飾られた自分たちの短冊を見つけると、うれしそうな表情を見せていました。

同支所では、冬にも園での餅つきの手伝いや、職員がサンタクロースに扮してクリスマス会を訪問するなど、年間を通じて交流を深めています。

鎌田支所長は、暑い中、支所に足を運んでくれた園児たちに、「暑さに負けないようにたくさん食べて水分をとって元気に過ごしてください。」と笑顔で伝えました。また、「かわいらしい子どもたちが来てくれて、とても心が和みました。これからもＪＡを身近な存在に感じていただけるよう、地域貢献活動を継続していきたいです」と話しました。

アグリスクール講習会　スダチの摘果・摘葉を学ぶ

佐那河内村は、果樹の栽培技術向上と継承を目的に「佐那河内果樹アグリスクール」を開いています。受講対象は、新規就農者や農業の担い手、Ｕターン・Ｉターンなどで就農を目指す人などで、村外からも受講でき、人気を集めています。

７月 13 日、農家の大仲保さんと山本浩史指導員が講師を務め、大仲さんの園地で「スダチの摘果・摘葉講習会」が行われました。

摘果・摘葉は、実り過ぎた果実や不要な葉を取り除く作業です。スダチの商品価値は主に色と大きさで決まるため、生産者は収穫の約１～ 1.5 か月前から摘果・摘葉を行い、果実の着色や大きさを調整します。

講習では、実際に４年生樹を対象に実習を行いました。大仲さんと山本指導員は、余分な果実を摘み取って大きさをそろえる方法や、果実に太陽の光を当てて着色を良くするための葉の取り方を指導しました。受講者は作業を体験しながら、適切な着果量の調整方法を学びました。

山本指導員は「摘果・摘葉や収穫作業は、着果量を適切に調整することで、隔年結果の防止や果実の肥大促進につながる重要な作業。さらに、スダチの商品価値にも大きく影響するため、しっかり覚えていただきたい。」と話しました。大仲さんは「果樹の生産量が減少傾向にある。まずは担い手を育成することで、生産維持につなげたい。」と話しました。

徳島農業支援センターより

スダチで昨年発生拡大した「チュウゴクアミガサハゴロモ」の発生状況について

「チュウゴクアミガサハゴロモ」とは？

本虫はカメムシ目ハゴロモ科に属する中国原産の昆虫です。国内では 2017 年に大阪府で初めて確認されて以降、急速に分布を広げ、2024 年に農作物への被害が初めて確認されました。2026 年 3 月現在、28 都府県で農作物病害虫発生予察特殊報が発表されています。徳島県では、2025 年 9 月に神山町の**露地スダチ**、小松島市の露地ミカン、石井町の県設置の予察灯で発生が確認され、2025 年 11 月 21 日に果樹全般を対象に特殊報が発表されました。目撃情報も多数寄せられ、県内広域で発生しています。

形態及び生態

（１）成虫の体長は７～ 14mm 程度、前翅長は約 14mm。前翅は茶褐色～鉄さび色である。前翅前縁中央部に三角形～半円形の白斑がある。

（２）幼虫は白色で、腹部から背中にかけて白い糸状の蝋物質の毛束をクジャクの尾羽のようにフワフワと広げている。触れようとするとジャンプして逃げる。孵化後幼虫は１齢～５齢を経過し、蛹にはならないで成虫となる。

（３）卵は寄主植物の枝の内部に産み付けられる。直径 10mm 以下の新梢など細い枝（だが強い枝）が選好される。産卵痕は白色の蝋物質で覆われ視認しやすい。

（４）国内における生態はまだ不明な点が多いが、本虫は枝にて卵の状態で越冬し、４月～７月及び９月～ 12 月に羽化する最低でも年２世代を経過すると考えられる。

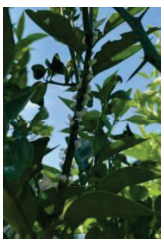
（５）本虫は広食性で、果樹類、樹木類、花き類に発生する。

寄主植物：**かんきつ類**、キウイフルーツ、ブルーベリー、オリーブ、りんご、もも、かき、ぶどう、くり、うめ、なし、いちじく、宿根アスター、ヒメジョオン、茶、いぬつげ、くちなし、えのき、いちょう、たらのき、かつら、くすのき、つばき、まさき、けやき、さるすべり、はなみずき、もちのき、さかき、ろうばい等

（６）本虫とよく似た在来種のアミガサハゴロモも分布している。

成虫
（R7.9.22 徳島市内）

産卵痕



幼虫
（R8.5.29 左と同園）

黒すすの発生
（ハウススダチ）

スダチでの被害の特徴と防除

被害の特徴

（１）成虫および幼虫が枝を吸汁し、多発生時には排泄物により、黒すすが発生し、果樹では果実の外観品質を損ねる。

（２）成虫が枝の樹皮に、維管束（枝の水分や栄養を運ぶ管）に達するほどの傷をつけて産卵するため、細枝の枯死や樹勢の低下につながることがあり、吸汁よりも被害が大きい。

産卵痕がある枝から伸びた新梢は弱い

防　除

（１）産卵された枝は発生源となるため、切除して埋却する等適切に処理を行いましょう。

（２）**2026 年６月現在、本虫を対象とした登録農薬はありません。**

このため、本虫を対象にした農薬散布はできません。（アオバハゴロモ登録の農薬は有り）ですが、国内の研究機関による室内での農薬試験の結果が公開されており、モスピラン (幼虫・成虫)、トランスフォーム (幼虫)、ハチハチ (幼虫)，アプロード (幼虫)、ダントツ (成虫)、アルバリン※(成虫)、アークリン (成虫)、テルスター (成虫) が本虫に効果が高いことが確認されています。（※アルバリンは、スタークルと同成分）

これらの農薬の殆どは令和８年度　露地すだち栽培暦（徳島県農業技術普及連絡協議会）等に掲載していますので、現時点では、栽培暦に基づいて各農薬の適用害虫を対象とした慣行防除を行うことが、本虫の同時防除に有効であると考えられます。

（３）本虫はスダチ園の周辺の樹木、草花で発生していることがあります。

令和8年度　露地すだち栽培暦より抜粋

月	対象害虫	農薬名
４月	アブラムシ類	トランスフォームフロアブル
５月	コアオハナムグリ・チャノキイロアザミウマ	モスピラン顆粒水溶剤
	ヤノネカイガラムシ	アプロード水和剤、又は、スタークル顆粒水溶剤
６月	ゴマダラカミキリ	トランスフォームフロアブル
７月	ミカンサビダニ・アザミウマ類	ハチハチフロアブル

農薬は使用前にラベルをよく確認して、使用基準を厳守しましょう。

スダチでは越冬虫の羽化発生を迎えるのは今年がほぼ初めてとなります。４月以降に羽化した本虫は、６月には成虫となり、産卵が始まっています。今のところ品質や収量に深刻な被害はありませんが、被害が発生しないように、本内容を参考にして、本虫の発生を増やさないようにしましょう。

参考文献：植物防疫所病害虫情報第 140 号、日本農薬株式会社 阿久津純一「侵入種チュウゴクアミガサハゴロモに対する各種殺虫剤の殺虫活性」、愛媛県病害虫防除技術情報 第４号 (令和７年８月)

賀上延啓（かがみ　のぶひろ）税理士事務所の無料税務相談

日時　9月9日（水）、15日（月）、29日（火）
9：30～15：00

申込先　総務部へ事前に予約が必要
088-622-6335

場所　本所1階 金融相談室

島田清弁護士の無料法律相談

日時　第1火曜日　9：00～12：00

申込先　金融共済部へ事前に予約が必要　　場所　本所1階金融相談室
088-622-6336

※無料法律相談は毎月第1火曜日に開催となりました。

健康百科

「脳血管障害について：脳梗塞について　その7」

徳島往診 クリニック　吉田大介

みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。今回は原性脳塞栓症の診断に続いて治療に関してです。

2－2急性期治療

心原性脳塞栓症の治療では、発症からの時間、閉塞血管の部位、脳梗塞の範囲、出血リスク、全身状態を総合的に判断します。急性期治療の目的は、閉塞した血管をできるだけ早く再開通させ、その先に再び血液と酸素が届くようにして脳組織の障害を最小限に抑えることです。発症早期で適応がある場合には、アルテプラーゼなどによる静注血栓溶解療法が検討されます。アルテプラーゼは、血栓の主成分であるフィブリンを分解し、閉塞した血管の再開通を促す薬です。遺伝子組換え組織型プラスミノゲン・アクチベータ、すなわち rt-PA とも呼ばれます。これは血栓を薬剤で溶かす治療で、発症から一定時間内に行う必要があります。

脳血管が閉塞すると、中心部では脳細胞が急速に不可逆的な壊死（梗塞コア）に陥ります。一方、その周囲には、血流は低下しているものの、まだ救済可能な領域があります。これを虚血性ペナンブラといいます。時間が経過すると、ペナンブラも次第に梗塞コアへ変わります。そのため、治療は早ければ早いほど有効性が高くなります。逆に長時間経過しているとすでに広範囲に脳組織が壊死した後に血栓を溶かすこととなり、傷んだ血管からの出血により出血性梗塞や症候性頭蓋内出血を起こす危険が高まってしまいます。

原則となる時間制限：日本では、通常、アルテプラーゼ静注療法は、「脳梗塞の発症から 4.5 時間以内に投与を開始できる患者」が対象です。4.5 時間以内であっても、治療開始が早いほど効果が期待できるため、画像検査や採血を迅速に行い、適応が確認され次第できるだけ早く投与します。ここでいう「発症時刻」は、原則として、・症状が突然出現した時刻・発症を目撃していない場合は、最後に正常だったことが確認された時刻を基準にします。（ただし、脳出血の危険性があるため、頭部画像、血圧、血糖、既往歴、内服薬、手術歴、出血傾向などを確認したうえで慎重に適応を判断します。）

太い脳血管、たとえば内頸動脈や中大脳動脈近位部、脳底動脈などが閉塞している場合には、機械的血栓回収療法が行われることがあります。これはカテーテルを血管内に挿入し、ステント型血栓回収デバイスや吸引カテーテルを用いて血栓を直接取り除く治療です。心原性脳塞栓症では比較的大きな血栓が主幹動脈を閉塞することが多いため、血栓回収療法の対象となることがあります。

血栓溶解療法や血栓回収療法の適応がない場合でも、急性期には脳浮腫、出血性変化、誤嚥性肺炎、深部静脈血栓症、心不全、不整脈などの合併症に注意しながら全身管理を行います。血圧、血糖、体温、酸素化、嚥下機能、栄養状態を管理し、早期からリハビリテーションを開始することが予後改善につながります。

心原性脳塞栓症では、閉塞血管が再開通した後に梗塞部位へ血流が戻ることで、出血性梗塞を起こすことがあります。そのため、抗凝固療法をいつ開始するかは重要な判断になります。梗塞の大きさ、神経症状の重症度、出血性変化の有無、再塞栓リスクを考慮し、頭部画像で確認しながら開始時期を決定します。

2－3抗血栓療法と再発予防

心原性脳塞栓症の再発予防で最も重要なのは、塞栓源となる心房細動などに対する抗凝固療法です。心房細動による脳梗塞では、血小板が主体となる動脈硬化性血栓とは異なり、心房内で血液がよどんで凝固系が活性化し、フィブリンを多く含む血栓が形成されます。そのため、抗血小板薬よりも抗凝固薬が中心になります。

非弁膜症性心房細動では、直接経口抗凝固薬、すなわち DOAC が広く使用されます。DOAC にはダビガトラン、リバーロキサバン、アピキサバン、エドキサバンなどがあり、ワルファリンに比べて頭蓋内出血が少ない傾向があること、食事制限が少ないこと、定期的な PT-INR 管理が不要であることなどが利点です。ただし、腎機能低下、高齢、低体重、併用薬によって血中濃度や出血リスクが変化するため、患者ごとに薬剤と用量を調整する必要があります。

一方、機械弁置換術後やリウマチ性僧帽弁狭窄症を伴う心房細動では、DOAC ではなくワルファリンが基本となります。ワルファリン使用中は PT-INR を定期的に測定し、治療域を維持することが重要です。治療域を下回ると脳梗塞の再発リスクが高まり、上回ると出血リスクが高まります。

2－4リハビリテーションと合併症対策

心原性脳塞栓症は梗塞範囲が広くなりやすく、片麻痺、失語、嚥下障害、高次脳機能障害などが残ることがあります。そのため、急性期からリハビリテーションを開始し、廃用症候群、関節拘縮、誤嚥性肺炎、深部静脈血栓症を予防することが重要です。

リハビリテーションでは、理学療法により起き上がり、座位、立位、歩行などの基本動作を回復させます。作業療法では、食事、更衣、排泄、入浴などの日常生活動作の改善を目指します。言語聴覚療法では、失語、構音障害、嚥下障害に対して訓練を行います。嚥下障害がある場合には、誤嚥性肺炎を防ぐため、食形態の調整、姿勢調整、嚥下訓練、必要に応じた経管栄養などを検討します。

退院後も、再発予防と生活機能の維持が重要です。服薬管理、血圧管理、糖尿病や脂質異常症の管理、禁煙、節酒、適度な運動、体重管理、睡眠時無呼吸の評価などを継続します。特に抗凝固薬は飲み忘れが再発に直結することがあるため、服薬カレンダーや一包化、家族による確認などを活用します。

理事会だより【6月 27 日　総代会終了後】

協議事項
(1) 令和8年度役員報酬（理事）の決定について【可決】
(2) 役員賠償責任保険の更新について　【可決】

報告事項
(1) その他

【7月 28 日】

協議事項
（1）ディスクロージャー誌の開示について　【可決】
（2）共済規程の変更について　【可決】
（3）令和9年度 JA 共済 地域・農業活性化助成金による果樹選果場太陽光発電設備設置事業について　【可決】
（4）令和7年度徳島県による常例検査に対する回答書について　【可決】
（5）マネロン・テロ資金供与対策に関する取組について　【可決】

報告事項
（1）ジェイエイ徳島市燃料サービスに係る不祥事件の発覚について
（2）令和8年度みのり監査法人による期中監査Ⅰ①の実施について
（3）第1四半期の余裕金運用状況報告について
（4）第2四半期の余裕金運用方針について
（5）ヘルプラインの運用実績について
（6）苦情等の受付対応実績報告について
（7）事務リスク管理規程に基づく事務ミス等の発生状況について
（8）反社会的勢力との取引排除および疑わしい取引の届出等組織犯罪等の防止にかかる対応状況について
（9）JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
（10）JAバンク基本方針に基づく「経営管理資料」について
（11）債権回収について

お詫びと訂正

本誌2026年8月号2ページの「青年部が田植え教室」の記事において、開催場所の記載に誤りがございました。

12 行目
誤）瀬畑俊夫さんの水田で
正）西原芳彦さんの水田で

関係者の皆さまならびに読者の皆さまにご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げ、訂正いたします。

組合員カードの提示をお願いします

ミニ資材店舗ご利用時には、必ず組合カードをご持参のうえ、ご購入時はご提示くださいますようお願いいたします。

びざん 9 月号
第 688 号
令和８年８月 25 日発行

発行所　徳島市農業協同組合
広報誌 掲載内容・送付先変更・送付停止などのお問合せ先
☎ 088-622-6335（総務部）